

第2回宇和島市障害者計画・障害福祉計画 検討委員会 会議概要

【開催日時】：平成29年12月27日（水） 14時00分～15時30分

【開催場所】：宇和島市役所 602会議室

【出席者】：審議会委員11名

武田委員長、山本副委員長、渡部委員、大西委員、渡辺委員、小林委員
酒井委員、桑原委員、中村委員、青嶋委員、奥川委員

1 開会

【岡田保健福祉部長より挨拶】

2 議事

(1) 第1回検討委員会における協議事項等の整理

【事務局から資料1を用いて説明】

【質疑応答】

（委員）宇和島市は具体的にグループホームに関してどのように考えているか。整備に関して何らかの援助はする、といった方向性は出しているだけなのか。

（事務局）市として提供体制を整えるために策を講じていかなければならないと思っており、どういったことができるのかというところから検討していかなければならないと考えている。

（委員）宇和島市として、前向きに具体的なものを出してもらえれば、私もも前に向けて進めるという考えを持っている。その辺を踏まえて、検討いただきたい。

（事務局）市が直営で建てるというのは難しい状況。事業者、社会福祉法人の方々と意見を交換し合い、考えていくという方法で進めたいと考えている。

(2) 計画策定に係るアンケート調査の結果について

【事務局から資料2を用いて説明】

【質疑応答】

（委員）今回550件の対象者の中で、6割しか回答が返ってきていないが、回答できなかった方は、どのような年齢層で、どのような人たちなのか。

（事務局）回答いただけなかった方の年齢まではデータを整理できていない。

（委員）高齢のために回答できなかったのではないか、また、それがどの程度なのか、そこが分かれば、もう少し見えてくるものがあるかも知れない。

(事務局) 発送者のデータを確認する。

(委員) このアンケートの集計結果は補正しているか。補正を行わないと、この数字は全く現実を表していない可能性がありますので、ご注意ください。

(委員) 手帳の種類(3種類)ごとにアンケートが何割返ってきたのかという数字を出すことは可能か。それが分かれば、標本抽出も精度の高いものになっていくのではないか。

(事務局) P7問2に手帳別のクロス集計も掲載しているので、ある程度拾うことができる。

(委員) クロス集計の数字は、実際のデータ(どの手帳を持っており、年齢層がどれだけというデータ)とどの程度乖離しているか。実際のデータと同じような割合で回答がなされていれば、このアンケート集計は実態を表しているといえることができるが、もし、実数と乖離した回答者の分布であれば、この集計結果は実態を表していない可能性が凄く高くなる。そういう認識がなければ、数字を見るのも変わってくる。

(事務局) 比較できていない。

(3) 関係団体・事業所調査の結果について

【事務局から資料3を用いて説明】

(4) 宇和島市障がい者計画・障がい福祉計画(第5期)案について

【事務局から資料4を用いて説明】

【質疑応答】

(委員) P49(2)精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築について、地域の中に住まう場をつくらないといけない。医療分野では国の施策からいくと平成31年までに地域移行を進めるようになっていく。平成32年度末までに協議の場の設置というのでは、これは到底間に合わないので、早速協議の場をつくっていただければいい。

(事務局) この計画を推進していく中で、協議の場において具体的に足りないものや必要なものを検討しながら見極め、それを整えていくには何が必要かということを議論する形で進めていきたいと考えている。平成32年度末という形で記載しているが、早めに取り組み、実効的な対応ができるようにしていきたいと考えている。

地域包括ケアシステムの構築をするのが、平成31年度までという位置づけにはなっておらず、そこを整えていく協議の場を設置することが国の指針になっている。協議の場を開くことにより、まずは関係者が集まり、「現状把握」「課題の把握」「解決策への検討」等を話し合える場の

設置を行い、そこから前に進んでいく形で取り組みたいと考えている。
(事務局) 障がい者であろうと高齢者であろうと、地域の中で暮らし続けることができるシステムを宇和島市はつくっていかねばならない。精神障がい者の地域移行は合併前から国は進めていたが、10年来進んでいないのが宇和島市の現状だと認識している。地域移行に向けて具体的に協議する場を32年度末までに設置するということを目標としてここに記載してある、ということをご理解いただきたい。

(委員) 現場に携わっている方に召集をかけ、協議を始めればどうか。各施設等・団体調査からの聞き取りで、グループホームやショートステイ含めてそういうことが挙がってきているので、早期に立ち上げるイメージを持っていただきたい。

(事務局) 行政サイドも、召集をかけ、まずはという考えでいる。地域移行の問題はスムーズにいかないのが現状だと思っている。

(委員) 地域に居住し続けるということには、一般住民の理解が必要。精神障がい者、精神の高齢者が居住するということに対して、地域の反対運動があったりするが、政や福祉関係者等と一体になって地域住民の方々と話し合いを行わないといけない。住民が主体となって共生社会に取り組みなくてはならない。家族が高齢化していく中で、家族だけでは対応ができなくなることが増えてくるのではないかと感じており、住民と一緒にお互いにインフォーマルな形の関係づくりの必要性を感じている。また、各種サービスにつながる仕組みが重要であると考えている。

(事務局) 出来るだけ早い時期に協議の場を考えていきたい。

(委員) 障がいのある方の生涯学習について、スポーツや文化の学習づくり等に取り組もうとしていることがあれば、一緒に考えていけたらと思う。

(事務局) 情報収集から始め、取り組んでいきたい。

(委員) 我々の法人で、就労移行と生活介護を組み合わせた形でカレッジという学びの場に取り組んでいる。就労移行のサービスと生活介護のサービスを利用しながら、施設側が学びの場を提供し、支援するという取り組みができる形がある。

(事務局) 情報収集を行い、情報提供もしていきたい。

(委員) 団体アンケートで、「ネットワークがうまく構築できていなかった」「何か困ったときに相談したいことをあげていく場がない」という意見が出ていたが、自立支援協議会が、そういう場だと思う。障がい者の方の困りごとが障がい者自立支援協議会に上がり、そこで議論して解決できないことが県、国にあがっていくというシステムになっています。例えば、宇和島市で足りないものがグループホームであることや、うまく

地域移行できなかった事例が何件かあるというところをどう解決していくかを考える場が、障がい者自立支援協議会だと思う。ただ、相談員の人数も不足しているので、そこは強化していかないといけないところだと思っています。何とか障がい者の方の生活の見直しができないかなと思っている。

(事務局) サービス利用者が増え、さらに高齢化や障がいの重度化により、ひとりが抱える問題が大きく、また難しくなる中で、相談支援体制充実の支援は考えていかなければならないと考えている。宇和島市は体制的に整っていないという状況が多々あり、すべてのことを一度にするというのは難しいので、当事者の方の意見を拾い上げ、情報整理をしっかりしながら、優先順位を決めていかなければならない。宇和島市の課題を把握し、どういう体制でいくのかを具体的に整えていかなければと考えている。

(委員) 県は事業所指定等を指定する関係で、サービスの充実に努めていかないといけない。職員の人材不足がネックとなっており、事業所の人材の確保、資質の向上に県も一体となって取り組んでいきたい。

(事務局) 市としても一体となって取り組んでいきたい。

(委員) 事業所を閉じたところは、職員の確保が難しかったからだと思っている。将来的に、職員を確保し続けられるのか。

(事務局) 具体的なことを申し上げることはできないが、そのような面も視野に入れて考えていくことが必要であると認識している。

(委員) 不動産価格は下がっており、今後も下がるはず。会社においては労働力が不足している。うまくマッチングすることで対応可能なことがたくさんあるのでないか。本庁内の部署内でやり取りすれば、マッチングの場を作れると思うので。庁内でうまく情報をやり取りして進めていきたい。例えば、教育委員会にはこのアンケート結果は届いているか。

(事務局) 届いていない。

(委員) 参考にしてくださいというやりとりがあつてこそ、いい宇和島市ができる。関係部署に対して情報を流通させていただきたい。

(事務局) 福祉課だけで対応できることは限られている。連携体制が整っていないのは反省点でもあるので、計画を進めるうえで、連携の強化や情報の提供に取り組みたい。

(委員) 居住のことに关しては、自立支援協議会で居住の部会もあるので、部会におろしていただけたらと思う。いきなり大きいことはできないが、部会としても取り組みを進めていけたらと思う。

(事務局) 既存組織の活用して取り組みを進めていくことを想定している。

(委員) 障害者雇用に関する制度の周知啓発や、職員の資質向上のための研修

に関して取り組んでいただきたい。

(事務局) 関係機関と連携して取り組んでいきたい。

(5) その他

【事務局より今回提示した計画案でのパブリックコメントの実施を提案→了承】

3 閉会